

流行ニュース:

< エボラ、ガボンおよびコンゴ >

2002年1月1日現在、コンゴとガボンの国境付近の村でエボラ症例が32例確認され、そのうち23例が死亡、残りの9例の調査を進めている。発症した患者の血液や体液に直接接触、あるいは接触が想定された人々については監視が21日間厳重に行われる。1月1日現在、191名の接触者について積極的に追跡調査が行われている。

今週の話題:

< ハンセン病、世界の傾向 >

2000年の終わりにはハンセン病の発生は世界的には人口1万人あたり1例以下となった。過去35年間でも1万人に8.4例(1966年)から12例(1985年)へ増加しピークを迎えたが、その後減少を続けている。昨年の年間発症者は世界で719,330例、そして597,232例が治療のために登録されている。1985年には122ヶ国間で流行が見られたが、そのうち107ヶ国では自国レベルでの撲滅を達成し、2000年末にはハンセン病が保健問題である国(有病率が1万人に1例以上、百万人以上の感染者のある国)は15ヶ国のみとなった。またうち5ヶ国では有病率は1万人に1例に近づいてきている。今日ハンセン病による負担が最も大きい国はインド、ブラジル、ミャンマー、マダガスカル、ネパール、モザンビークの6ヶ国であり、負担の減少に全力を注いでいる。

疾病による負担が減少することで削減できるのは単に治療費だけではない。患者の大部分は働き盛りの年齢層にあることから、個人的そして社会的経済がこうむる損失も重大である。「身体障害のない治療」により未然に防ぐことのできる経済的、社会的負担は測り知れない。ハンセン病撲滅のため早期発見、多剤併用療法(MTD)による治療といった戦略が実施された。発生件数の飛躍的な減少の結果、患者やその家族の精神的負担や不安の軽減、失業の減少、経済的損失補償の地域予算の減少などが見られた。

* 有病率と症例発見における傾向: 有病率は1985年以来着実に減少しており、2001年には世界全体で89%減少した(表2)。WHO地区別減少率は西太平洋(95%)、アフリカ(94%)が高く、アメリカ(72%)が最も低い。

表2: ハンセン病、有病率、WHO地区、1985年-2001年

WHO 地区	登録症例数 200年 1月 1日現在							
	1985	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
アフリカ	987607	113650	95 901	82 758	82 522	68 457	64 490	58 694
アメリカ	305 999	195 891	123 537	127 866	119 279	86 029	90 447	85 996
東地中海	74 892	23 219	23 005	13 038	11 977	9 748	8 785	8 525
東南アジア	3 737 157	913 664	651 562	637 413	591 069	635 719	574 924	432 715
西太平洋	245 753	40 508	32 254	26 533	23 413	19 487	13 771	11 105
計	5 351 408	1 286 932	926 259	887 608	828 260	819 440	752 417	597 035

表3: ハンセン病、症例発見、WHO地区、1994年 - 2000年

WHO地区	症例発見数						
	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
アフリカ	47 900	46 516	46 489	56 507	51 530	55 635	54 602
アメリカ	36 623	36 842	43 783	43 159	47 218	45 599	44 786
東地中海	6 504	5 231	5 761	6 306	5 923	5 757	5 565
東南アジア	456 882	428 652	457 921	565 416	689 069	621 620	606 703
西太平洋	12 737	12 135	12 613	13 573	10 617	9 501	7 563
計	560 646	529 376	566 567	684 961	804 357	738 112	719 219

症例数は全体的傾向として1995年-1998年間に増加、1999年-2000年間に減少している(表3)。このような現象はハンセン病撲滅キャンペーン(LECs)等の活動強化によるものとして部分的に説明できる。太平洋西部、地中海東部における有病率は1994年には各々1万人に0.25と0.55例であり、発見率は1995年-2000年の間に減少した。特に太平洋西部ではこの期間40%以上の減少があった。アメリカにおける有病率は1万人に2.6例(1994年)であり、1994年-1996年における新症例7,000例の発生後は1998年に小さなピークがあるものの一定している。アフリカでの有病率は1994年には1万人に2.1例、1996年-1997年間に8,000例の増加をみたが、その後一定している。東南アジア地区では1996年-1998年間に増加したが、その後減少し、それが世界の傾向を反映した。

* 主要な流行国：ハンセン病流行の見られる主要 6 ヶ国では世界の有病率の 83%、発見率の 88% を占め、これらの国々の有病率は計 1 万人に 3.6 例となる。インド一国で世界の新症例数の 78% を占めており、インドのトップ 5 地域が国全体の症例の 60% を占めている。低い MTD サービス、新症例と多菌性症例の中に二級身体障害者の占める割合の高いことはモザンビークにおけるハンセン病の特徴であるが、インドにおいては 15 歳以下の児童の占める割合の高さと二級身体障害者の割合の低さが注目された。

* 2001 年 年間報告の要約：2000 年末 120 ヶ国で 593,526 例（10 万人に 1.2 例）が登録され、717,728 例が新たに発見された（表 10）。

* 症例発見：性別は 2001 年度ではほとんど報告されていないが、58 ヶ国の新しい症例 35,395 名については 12,207 名（34%）が女性であったと報告された。2000 年に 79 ヶ国からハンセン病の再発例 5,266 症例が報告され、最も報告が多かったのはインド、ネパール、インドネシアであった。2001 年の新しい症例の分類は以下の通り：115 ヶ国 675,180 例のうち、多菌性（MB）39%、少菌性（PB）52%、単一皮膚疾患（SSL）9%、29 例は分類不明。MB 症例の割合は東地中海、西太平洋、ヨーロッパ地区に多く、東南アジア地区では低い。15 歳以下の児童の発症に関する報告（81 ヶ国）によれば 15 歳以下は 645,517 症例中 112,327 症例（17%）で、新症例のうち 15 歳以下の子供の占める割合は特にアフリカと東南アジア地区で高い。インドを除いた東南アジア諸国での割合は平均 11%。アメリカ地区においては 1998 年で 9.4%。ブラジルにおける正確なデータが含まれないため、減少が見られたのかもかもしれない。

表 13: ハンセン病、新症例における身体障害の割合、WHO 地区別、2000 年

WHO 地区	報告国数	新症例数	身体障害を伴う症例	
			数	%
アフリカ	41	52 399	5 827	11
アメリカ	6	973	50	5
東地中海	10	5 412	1 121	21
ヨーロッパ	4	25	8	32
東南アジア	8	606 671	16 744	3
西太平洋	25	7 543	899	12
計	94	673 023	24 649	4

二級身体障害については 94 ヶ国から新しい症例報告があった（表 13）。身体障害者情報のある新症例 673,023 のうち、24,649（4%）は二級身体障害を有している。特にアメリカと東南アジア地区で低く、ブラジルは 6% である。東南アジア地区（インドを含む）では、二級身体障害者の割合は平均 9%。アフリカでは比較的高い割合を示しているが、新症例の高発見率とチャド・コートジボアール、モザンビーク等における二級身体障害者の割合の高さが関係していると考えられる。

* MTD 達成範囲：2001 年には MTD 達成範囲について 50 ヶ国が正確な情報を報告し、保健施設の総数から MTD 実施施設の割合が明らかとなった（表 14）。22 ヶ国で 80% 以上、14 ヶ国では 10% 以下であった。

表 14: ハンセン病、MD 療法を実施している保健施設の数、2000 年

^a MD 配布ポイントも含む

国	保健施設の総数	MD 療法を行う保健施設	
		数	%
アンゴラ	1 189	290	24
バングラディッシュ	625	625	100
中央アフリカ	472	45	10
インド	25 910	24 615	95
マダガスカル	1 953	1 196	61
モザンビーク ^a	1 155	720	62
ミャンマー	7 488	7 488	100
ネパール	4 123	3 000	73
ニジェール	407	350	86

* 結論：2000 年末、世界のハンセン病有病率は 1 万人に 1 例以下となり、国レベルでハンセン病除去に焦点をあてることができたことを意味する。過去 15 年間、有病率は 89% 減少し、ハンセン病が未だ国家的保健問題となっている国数は、122 ヶ国から 2000 年には 15 ヶ国に減少した。1998 年に始まった減少傾向は現在も続いている。現在でも主に風土病としてハンセン病が流行する 6 ヶ国においては未だ問題が残されており、このうちインド一国で世界全体の 78% の有病率と 64% の症例発見を示す。参照：表 1：ハンセン病、最新情報、WHO 地区別、2000 年、表 4：ハンセン病、主要流行国、2000 年、表 5：ハンセン病、有病率および症例発見率、インド、2000 年、表 6：ハンセン病、有病率および症例発見率、ブラジル、2000 年、表 7：ハンセン病、有病率および症例発見率、ミャンマー、2000 年、表 8：ハンセン病、有病率および症例発見率、マダガスカル、2000 年、表 9：ハンセン病、有病率および症例発見率、ネパール、2000 年、表 10：ハンセン病、120 カ国からの有病率および新症例発見率、WHO 地区別、2000 年、表 11：ハンセン病、新症例分類、2000 年、表 12：ハンセン病、新症例における 15 歳以下児童の割合、WHO 地区別、2000 年（WER 参照）（君野純子、葛谷知子、中村美優、小西英二）